

保健室だより

平成 28 年 1 月発行
大正大学 保健室

今月は『未成年者飲酒防止』を特集します。

未成年者の飲酒は、中高年と比較して急性アルコール中毒やアルコール依存症等のリスクが高くなり、事件・事故との関連も深いという特徴があります。

未成年者がお酒を飲んではいけない理由

1. 成長過程の脳が委縮し、体や心の健全な発育を妨げる
2. 急性アルコール中毒になる危険性や、危険な行動をとるリスクが高い
3. 成人してからアルコール依存症になる危険性が高くなる

以上の理由から、未成年者の飲酒は禁止されています。



未成年者の飲酒実態

飲酒をしている未成年者の割合は、「健康日本 21」など未成年者飲酒防止の為にさまざまな取り組みによって減ってきています。

しかし、2010 年に行われた全国の中・高校生を対象にした調査（厚生労働省の全国調査）では、飲酒経験者率は中学 3 年生で 4 割程度、高校 3 年生で 6 割程度となっています。さらに、直近 1 ヶ月で飲酒した経験があると回答した者が、中学生で 1 割強、高校生で 2 割弱いることも事実です。

（2011 年 3 月厚生労働科学研究費補助金総合研究事業
未成年者の喫煙・飲酒状況に関する実態調査研究）



「飲まない」という意思をはっきり伝えましょう。

未成年者飲酒防止 - 大人が未成年者にすすめない -

未成年者飲酒禁止法【未成年者（満 20 歳未満）の飲酒禁止】は、未成年者の飲酒を禁止するだけではなく、「親権者は未成年者の飲酒を**制止**しなければならない」「営業者は未成年者が飲むと知っていながら酒を**販売、供与**してはならない」と規定しています。この法律では、飲酒した未成年者が罰せられるのではなく、周りの大人の責任が問われているのです。しかしながら、ごく軽い気持ちで「お前も一杯飲むか」「少しくらい飲めたほうがいいぞ」と、お酒を勧めてしまうケースもみられます。未成年者が最初にお酒を飲むきっかけとしては、親のすすめが多いのが実情なのです。

未成年者の飲酒を防止するには、まず大人がきちんとした知識を身につけることが大切です。



未成年者飲酒による事件・事故

未成年者飲酒による事故の代表的なケースに、「**急性アルコール中毒**」があります。急性アルコール中毒で病院に運ばれる人は非常に多く、東京都内だけでも年間 1 万 1 千人以上の方が救急車で運ばれています。そして、その**約半数が 20 代の若者と未成年者**で占められています（2008 年東京消防庁）。

「イッキ飲み防止連絡協議会」（代表：石谷師子氏）の調査によれば、1986 年以来、少なくとも 90 名以上の若者が「急性アルコール中毒」等で亡くなっています。その他、コンパや卒業式等での「酒盛り」や転落事故、飲酒運転、飲酒後の暴行事件なども毎年数多く報告されています。



イッキ飲みは急性アルコール中毒の原因に！

急激かつ大量にお酒を飲むと、血中アルコール濃度は急速に高まります。体や脳が「これ以上飲むと危険」という信号を発する機会がないまま、**ほろ酔いやいい気分を飛び越して一気に脳が麻痺してしまい、ひどい場合は昏睡状態や死に至る危険**が出てきます。これが急性アルコール中毒です。意識がない場合（昏睡状態、反応がない、ひどいびき）は**直ちに救急車**を呼びましょう。

アルコール・ハラスメント（アルハラ）とは

「**飲酒の強要**」「**イッキ飲ませ**」「**酔いつぶし**」「**飲めない人への配慮を欠くこと**」「**酔ってからむこと**」など、お酒の席での嫌がらせ、迷惑行為のことです。「イッキ飲み」や、本人の体質や意向を無視して飲酒をすすめることはもちろん、飲めないことを侮辱すること、酔ったうでの暴言・暴力もアルハラです。「お酒の席だから」では済まされない、相手を傷つける**人権侵害行為**なのです。



世界保健機関（WHO）では若者の飲酒に強い懸念を示しており、その対策として飲酒禁止年齢に関する提言がされています。日本でも「健康日本 21」の中で、未成年者飲酒をゼロにすることが目標として掲げられているように、**未成年者飲酒防止は、「飲酒問題対策」の大きな柱**となっています。

ビール会社 5 社で構成するビール酒造組合では「STOP！未成年者飲酒プロジェクト」を立ち上げ、未成年者の飲酒を防止する運動を展開しています。



1月のレシピ ～もちのピザグラタン～

お正月に余ったおもちを、ケチャップとソースの即席ピザソースで洋風アレンジ！農林水産省HP「めざましごはん」をご覧ください。

